『奥州市総合計画』スタートの年

まちづくりにどう活かす？

～予算審査特別委員会～

3月議会は19年度予算の審査を行う重要な会議です。予算審査の方法は、議員全員で構成する予算審査特別委員会（数江與志元委員長、佐藤克夫副委員長）を置き、3月19日から28日までの7日間の日程で審査されました。審査の結果、いずれも原案のとおり可決すべきものと決定しました。本特別委員会での主な質疑は、次のとおりです。

総合政策部門

質問　大袋養蚕団地跡地の活用事業で土地の買い上げの価格が妥当なものかどうかについて伺います。

答弁　７０００万円予算を計上しています。この価格が妥当かについて、70ヘクタール関係については平成16年に3筆ほど不動産鑑定士の鑑定、又近傍での売買実例などで適正な用地購入価格であるとしたものです。

質問　合併前の議会でどの様な検討をされましたか。

答弁　平成9年頃から取得の関係の協議が何回かされ、平成14年頃から大袋養蚕団地の方々から購入について町の方で進めてくれないかという申し入れがあり、議会として全員協議会により土地について考えてこられたという事です。平成16年に全員協議会で2回ほど協議され、22世紀の森構想が打ち出されそれに基づいて動いてきています。

質問　前沢区の皆さんには概ね理解を得ていると理解をして宜しいですか。

答弁　前沢区としても地域協議会で2回ほど取得の関係でお話をさせていただいています。

質問　奥州市には素晴らしい山林等々あります。改めて市民の森として13万市民の理解が得られるかは疑問ですので伺います。

答弁　この件については、旧前沢町の課題を合併前に解決しようという意思が引き継がれました。又前沢町議会におきまして説明され、合併後においても地域協議会の一定の理解、承認を頂いて財源の手当ても持ち込みの基金の中で行うとなりましたので、これを尊重しながら使い道について有効な活用は検討を加えて行くべきものと思います。

質問　一般廃棄物処理場は15年間で頭打ちとなるので、22世紀の森構想ではなく、廃棄物の処理場の拡大土地としては如何か伺います。

答弁　今後検討すべきと思います。懸案事項であり、地域整備基金のルール外で購入、住民合意を得られるのではないかと思います。これで解決を見たいので、ご理解頂きたいと思います。

質問　地域通貨導入調査検討経費15万円はどの様なことを考えておられるのかお尋ねいたします。

答弁　地域通貨という新しい取り組みで、全国各地で色々ありますし基礎的な情報収集、調査検討し勉強会を内部的に立ち上げて参りたいと思います。

総務部門

質問　財政の健全化に関する法律案の主旨についてどの様なご認識か伺います。

答弁　財政の健全化については私共新市にとりまして大きな命題で御座います。法律が出来る、出来ないにかかわらずしっかりとやっていかなければならないと思っております。とりわけ合併をしての新市建設計画、総合計画その他行政需要が沢山ありますので財政の健全化を維持しながら、行革等も進め行財政運営を進めて行かなければならないと思っております。

質問　県からの６００近い事務事業が委譲され職員も来るということですが、財源も一緒に来るのか、19年度予算へどの様に反映されていくのか伺います。

答弁　県からは５６０事業が委譲されますし、県から3名の職員が派遣され、県から給料が支払いされます。又委託金として３５６万円が市町村事務処理交付金として交付されます。

質問　コンビニでの税金等の納付についてのメリットを伺います。

答弁　コンビニでの納付は、19年度は軽自動車税・水道料金がいつでも納められます。住民の利便性と納付の機会が増えることから、収納率の向上と滞納防止につながると考えています。又、今後は郵便局でも納付が出来る方向なので、取り扱い税目も国保税、固定資産税、県民税まで拡大することを考えています。

質問　地方交付税の内、特別交